

Figure 1. Schematic diagram of the experimental setup.

STEP5 室外ユニットの据付け つづき

③ エアパージとガス漏れ確認を行う

地球環境保護の観点から、エアパージは、真空ポンプをご使用ください。

- R32用もしくはR410A用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を使用する。
- 閉鎖弁の弁棒操作に六角レンチ(対辺4mm)を用意する。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付ける。

- 図を参考に各接続箇所を接続する。
- ゲージマニホールドの低圧側バルブを全開、高圧側バルブを全開にする。
◆高圧バルブは以降操作しません。

- 真空引きを行い、達成計が -0.1MPa (-76cmHg)になっていることを確認する。

達成配管長さ	真空ポンプ運転時間
15m以内	10分以上
15mを超える	15分以上

- ゲージマニホールドの低圧側バルブを全閉にし、真空ポンプを停止させる。

- ◆1～2分間そのまゝの状態にし、達成計の針が戻らないことを確認します。
- 達成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられるため、各接続部の高検、およびナットをいったんゆるめ、締め直し後、もう一度真空引きの操作を行う。

- 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。

- 液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行う。

- ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にする。

- ◆弁棒は、あたりがある所まで止め、それ以上回さないでください。

- 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付ける。

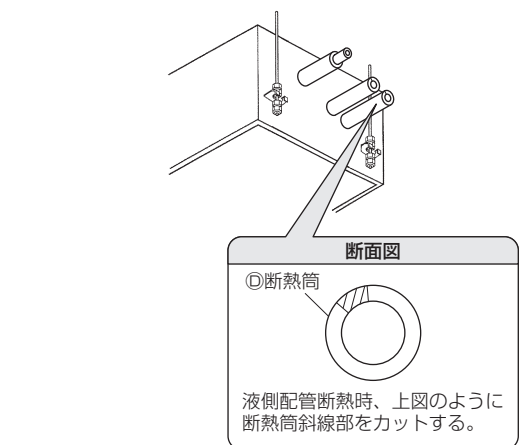
● 気密試験について

- ◆気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。

- 室外ユニット閉鎖弁は全閉のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認する。
- 気密試験は、高圧側の設計圧力まで昇圧させる。(4.17MPa)
- 気密試験後は真空ポンプを使用して窒素を回収する。

4 接続配管の仕上げをする

- ①断熱筒を適当な長さに切断する。

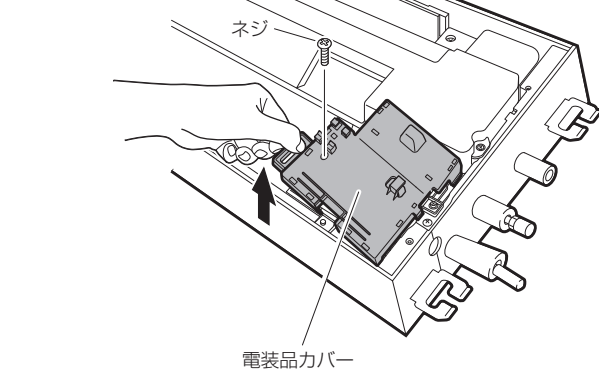


- ◆梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(室内)相対湿度が80%を超えると思われる場合は、断熱材の外皮表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。

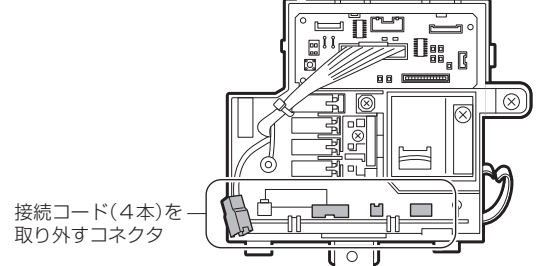
STEP6 必要なときに

● HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合①

- 電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)

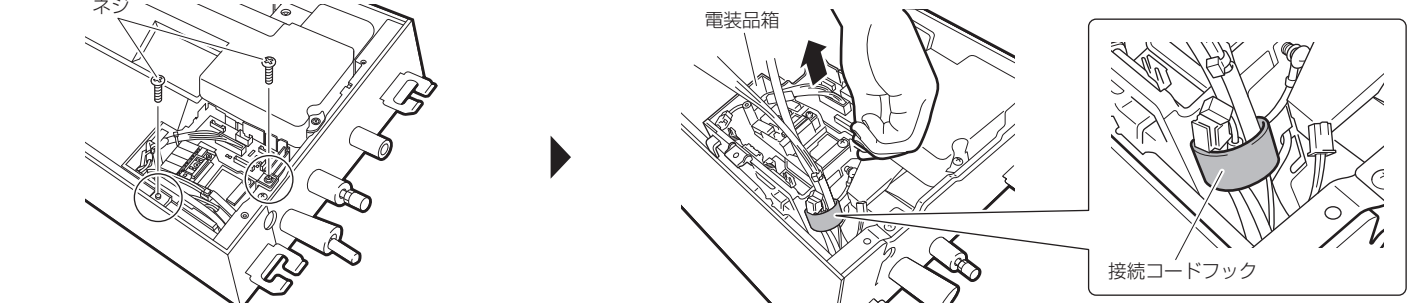


- 接続コード(4本)を電装品箱の各コネクタから取り外す。



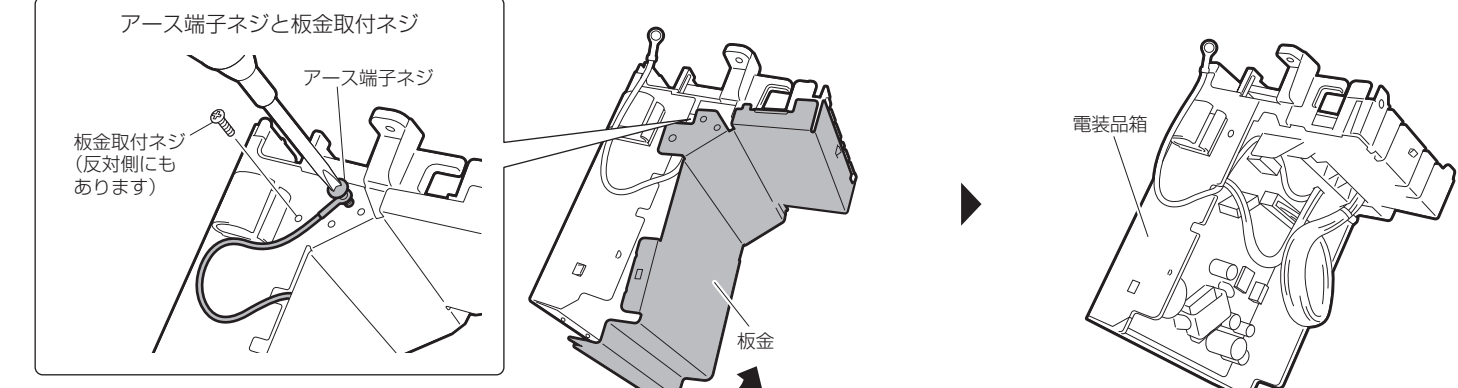
- 電装品箱を室内ユニットから取り外す。(ネジ2本)

- ◆接続コードフックから接続コードを取り外します。



- 電装品箱の板金を取り外す。(ツメ9ヵ所)

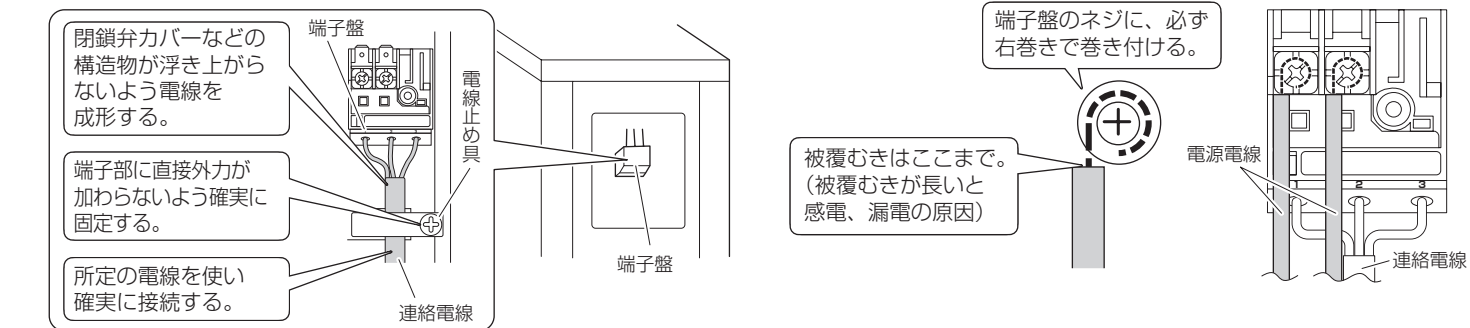
- ◆アース端子ネジと板金取付ネジを外します。



STEP5 室外ユニットの据付け つづき

⑤ 電線を接続する

- 室外ユニットの端子盤に連絡電線を取り付ける。
 - 取付けかたは、STEP4 ⑤ 電線を接続する に準じる。

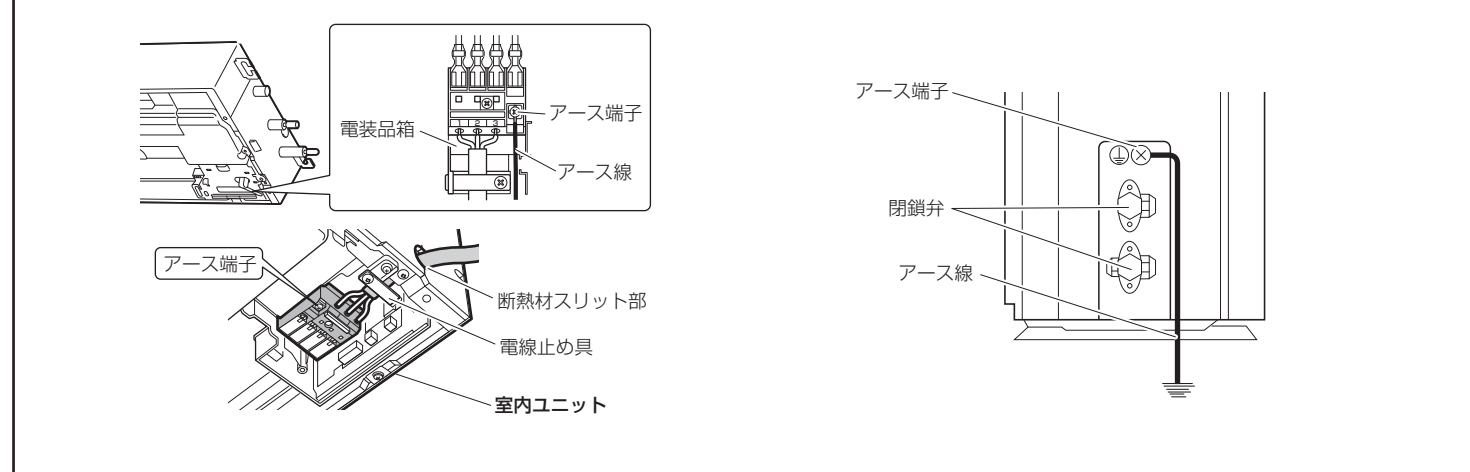


アース線の工事

- 種接地工事を行う。
 - ◆接地抵抗は必ず100Ω以下にする。
 - ただし漏電遮断器(定格感度電流が100mA以下で動作時間が0.2秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は500Ω以下にする。

● アース線の接続について

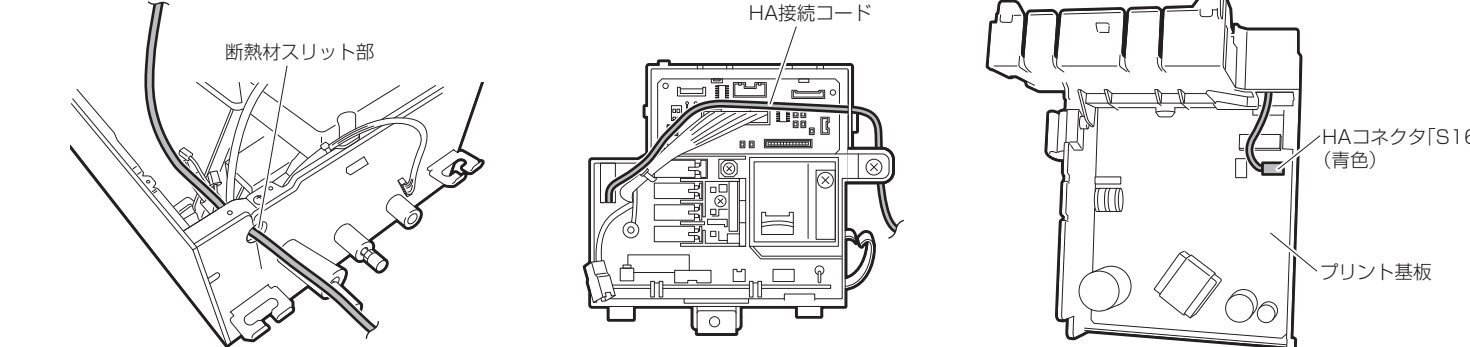
- 室内アースの場合
 - ①電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)
 - ②アース線を断熱材スリット部から通す。
 - ③アース線を固定する。



STEP6 必要なときに つづき

● HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合②

- HA接続コードを側板の断熱材スリット部よりユニット内へ通し、プリント基板上のHAコネクタ「S16」(青色)に接続する。
 - ◆リモコン切換スイッチ(SW1-1)は「OFF側」(ワイヤレス)(工場出荷時のまま)です。

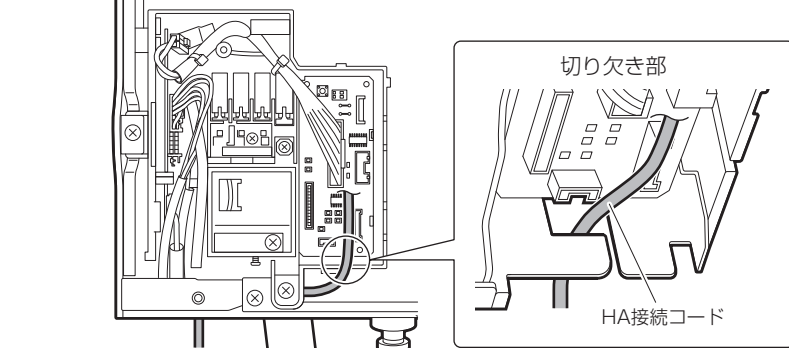


- 電装品箱の板金を取り付ける。
 - ◆アース端子ネジと板金取付ネジを取り付けます。

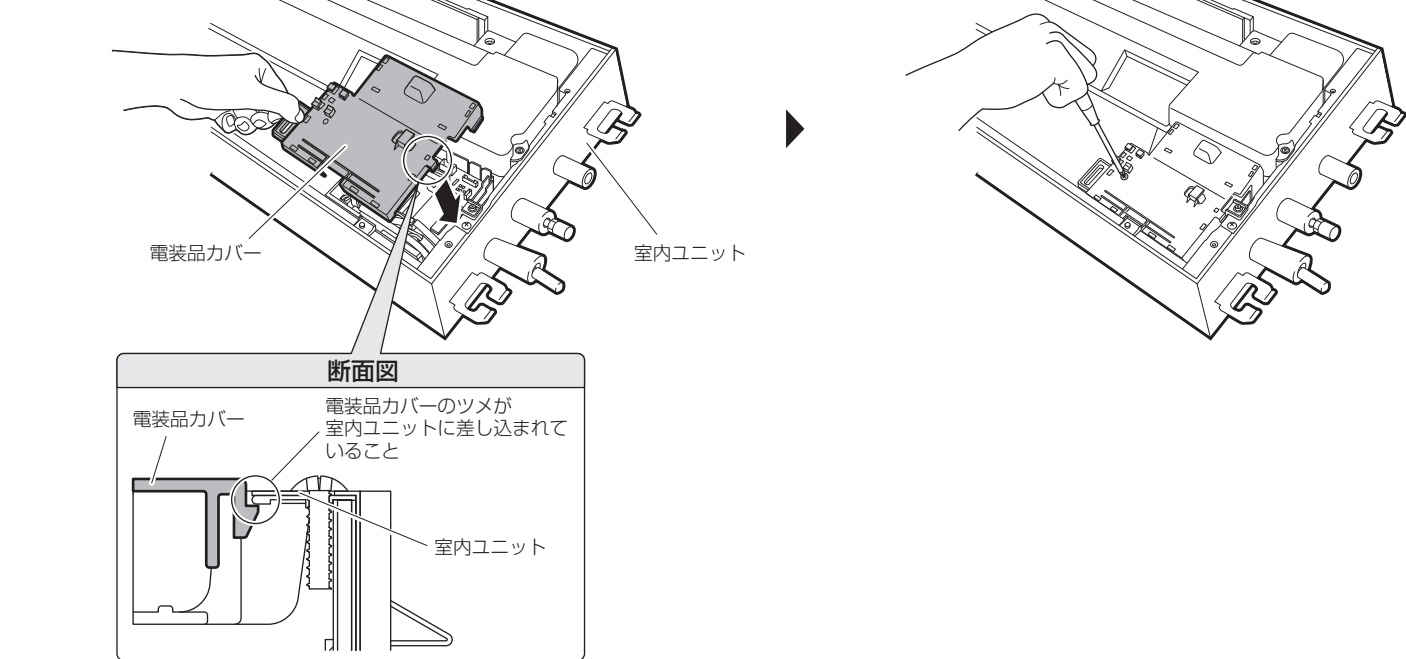
- 電装品箱を室内ユニットに取り付ける。(ネジ2本)

- HA接続コードの仕上げをする。

- ①HA接続コードを電装品箱の切り欠き部に引き回す。



- 電装品カバーを取り付ける。(ネジ1本)

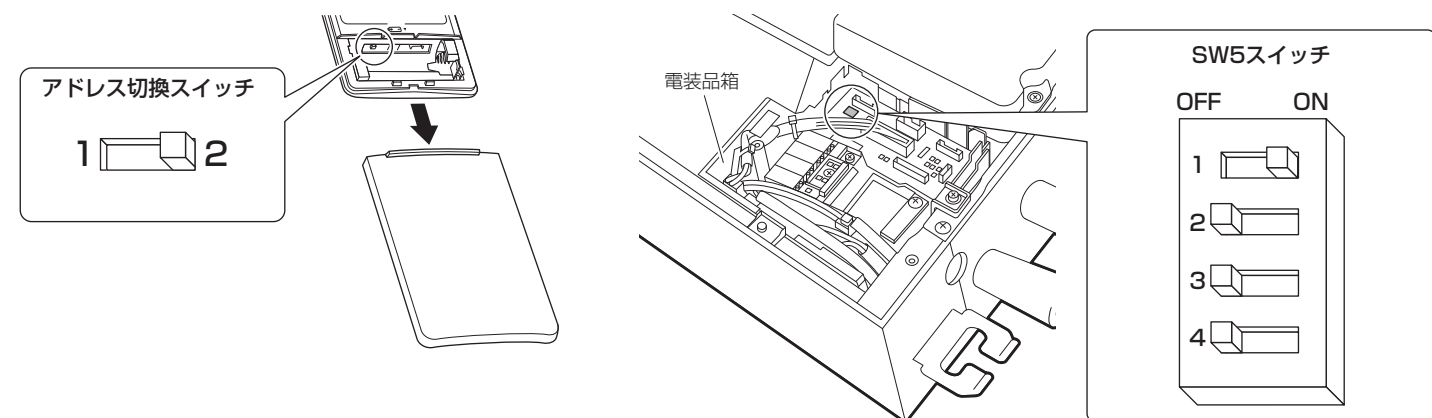


STEP6 必要なときに つづき

● 同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

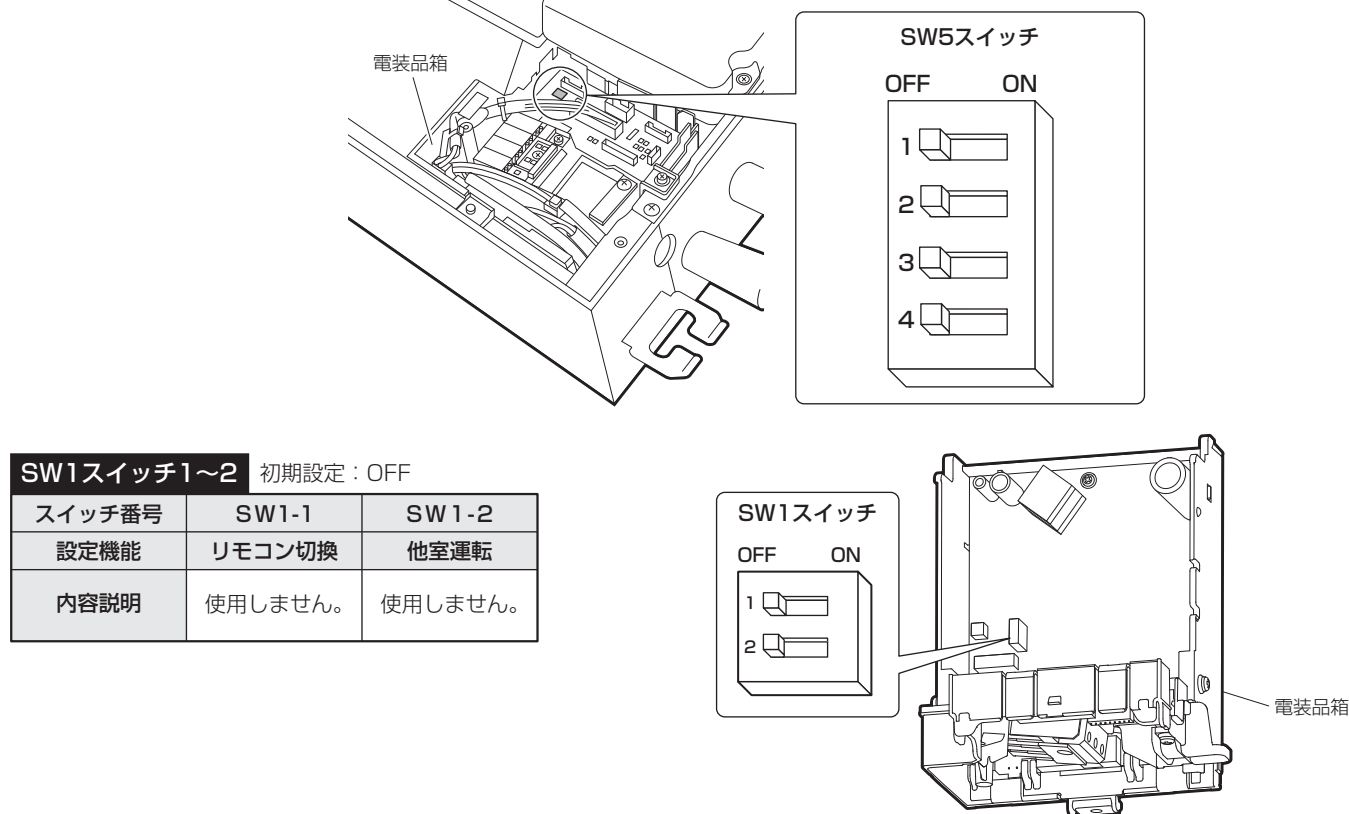
- ◆2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。

- リモコンの電池を抜いて、「取消」ボタンを押す。(リモコンの表示が消えたことを確認してください)
- リモコンのアドレス切換スイッチを「2」にする。
- 電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)
- プリント基板上のアドレススイッチ(SW5-1)を「ON」にする。
- 電装品カバーを取り付ける。(ネジ1本)



● スイッチ設定方法と使いかた

SW5スイッチ1～4 初期設定：OFF				
スイッチ番号	SW5-1	SW5-2	SW5-3	SW5-4
設定機能	アドレス	パネル	集中個別	高天井
内容説明	同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合、「ON」にする。	使用しません。	使用しません。	天井高さが2.5～2.7mの部屋で暖房時の風量をアップさせたい場合、「ON」にする。



STEP7 試運転と確認 つづき

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 □欄でチェック(○)をしてください。

番号	チェック項目	不良の場合
1	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられているか？	落下、振動、騒音
2	<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行ったか？	冷えない、暖まらない
3	<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行ったか？(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)	水漏れ
4	<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしたか？	水漏れ
5	<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要お客様に確認したか？	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
6	<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実か？	感電の危険
7	<input type="checkbox"/> 「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電線は正しく接続したか？(電線の仕様、接続箇所)	運転不能、焼損
8	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがっていないか？	冷えない、暖まらない
9	<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いているか？	冷えない、暖まらない
10	<input type="checkbox"/> 化粧パネルからのリード線のコネクタは確実に接続されているか？	運転不能
11	<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認したか？	運転不能
12	<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認したか？	運転不能
13	<input type="checkbox"/> 保証書に形名(機種名)及び製造番号(7桁)を記入してお客様に渡したか？	—

◆この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください)

STEP6 必要なときに つづき

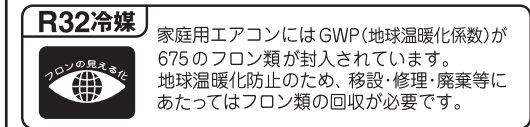
● エアコンの移設や修理、廃棄するとき ポンプダウン運転

● 警告

- 冷凍サイクル内にR32以外の空気を混入させない。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。(圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(リルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)

- ◆地球環境保護の観点から、移設時にはポンプダウンを行い閉鎖弁をしっかりと閉めてください。
- ◆フロン排出抑制法により、冷媒フロンの回収が必要です。廃却時にはフロン回収事業登録業者に依頼してください。

● フロンについて

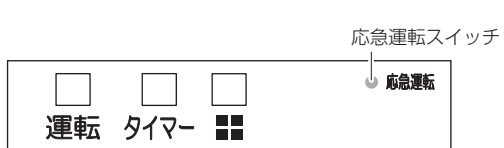
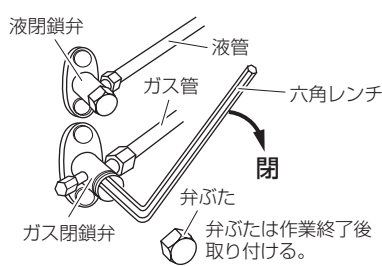


この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が混入されていることを注意喚起するための表示です。

- ポンプダウン運転を行う。
 - ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
 - ②強制冷房運転を行う。
 - ③5～10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じる。
 - ④2～3分後、ガス閉鎖弁を閉じる。
 - ◆強制冷房運転を停止します。

● 強制冷房運転のししかた

- ◆室内ユニットの応急運転スイッチを5秒以上長押しする。
- ◆「ビッピ」と鳴り、運転を開始します。
- ◆強制冷房運転は約15分で終了し、自動的に停止します。強制的に運転を終了させたいときは室内ユニットの応急運転スイッチを押してください。



STEP7 試運転と確認

● 試運転を行う

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスかけ時には、エアコンの運転を避けてください。作業終了後にエアコンを運転する場合は、十分に換気を行ってください。ワックスなどの成分がエアコン内部に付着し、水漏れの原因になります。

● 試運転前に化粧パネルを必ず取り付ける。

- ◆試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。

- コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様通りを確認する。
- 冷房運転のときは設定温度を一番低い温度に、暖房運転のときは一番高い温度に合わせる。
- 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常な作動することを確認する。

- ◆停止後約3分間は製品保護のため運転しません。

- 試運転後は適切な温度(冷房の場合26～28℃、暖房の場合20～22℃)に戻す。

- アドレススイッチ、高天井スイッチの設定を確認する。

- ◆冬季に冷房運転をするなどの場合は、次の方法で試運転モードにして行ってください。

- ①「運転/停止」ボタンを押す。(運転開始します)
- ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押す。
- ③温度▲ボタンを押し、「7」を選択する。
- ④「運転切換」ボタンを押し、試運転モードを開始する。
- ◆試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。
- ◆試運転モードでは、一部の機能が使用できません。

- ◆エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、ムダな電力消費を避けるため、ブレーカーを切ってください。また、お客様への引き渡し時には必ずブレーカーを入れてください。

MEMO